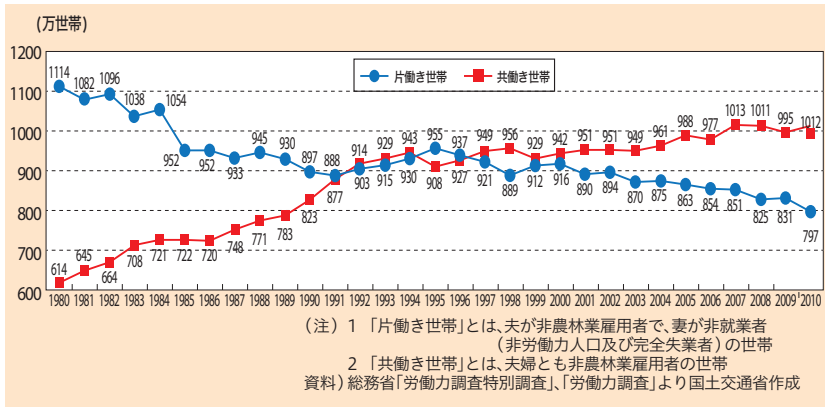


なぜ男性の育児参加が必要なの？

イクメン

共働きの増加

1980年当時は、夫婦のうち男性が主な働き手となる片働き世帯が主流でしたが、共働き世帯数は継続的に増加し、1997年には共働き世帯が片働き世帯数を上回ることに！



意識の変化

「家事も夫婦半々で担うべき」と考える人が増えてきています！男性(夫)が、女性(妻)の社会進出を望んでいるということが背景としてあるようです。

Q.家事等は原則的に夫婦で半々に担うのが良い

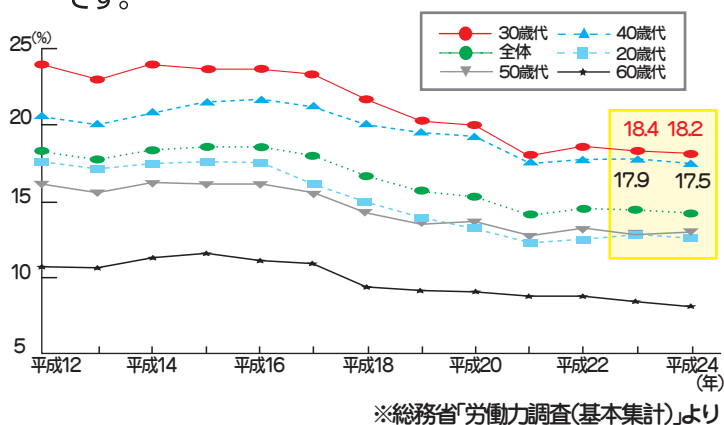
肯定

69.2%

(福岡県 雇用均等・仕事と家庭の両立実態調査 平成25年度より)

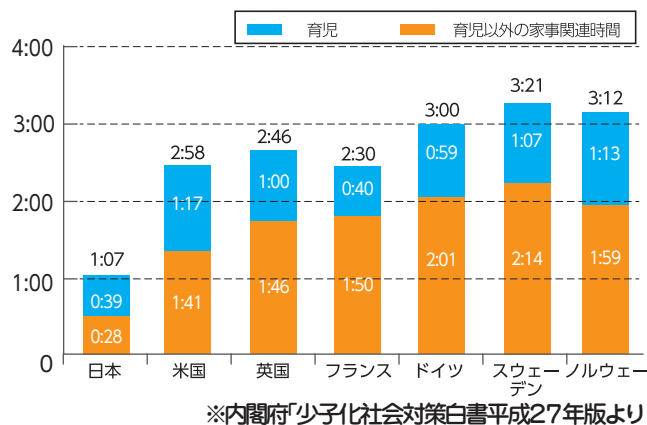
長時間労働

週労働60時間以上の就業者の割合(男性・年齢別)を見ると、30代・40代男性の5人に1人が60時間超で働いています。これでは男性の育児参加は難しい状況です。



男性の家事・育児参加時間

6歳未満児をもつ夫の家事・育児時間(1日当たり)の各国比較を見ると、日本人男性の家事・育児時間は先進国の中で最も少なくなっています。



イクメンが求められる

だから



男性の育児参加

長時間労働の解消をして、家庭での時間を増やす

男女が協力して働き育児をする

イクメンとは・・・子育てを楽しみ、自分自身も成長する男性のこと。または、将来そんな人生を送ろうと考えている男性のこと。

